

# かしわがや

No.1134

25

**特集**

ものづくりは人づくり  
人材育成にかける思い



ものづくりマイスターカレッジ (写真の説明は31ページに掲載)



ようこそ。  
まちこ  
越五の国へ。  
[上越]妙高|柏崎|十日町|佐渡  
北陸新幹線開業 連携5市プロジェクト



# ものづくりは人づくり

## ―人材育成にかける思い―

圃工業振興立地課（ものづくり活性化センター）

☎ 32・2042 FAX 32・2043



製品の組み立て作業を行う(株)品銀鉄工所の高橋さん(左・マイスターカレッジ3期生)と善積さん(同5期生)

マイスターカレッジの理解者である(株)品銀鉄工所の品田社長は、「会社では現場があるのでなかなか教育ができない。基礎やベースになるところを教えてくれるこうした研修はありがたい」と話していました。



ものづくり活性化センターでの研修の様子

ものづくりの百年。歴史をさかのぼれば「日本の石油発祥の地」でもある柏崎市。明治中期に日本石油会社が当市に立地したことに始まった機械金属加工を中心とするものづくり産業。時代の流れとともに確かな技術を身に付け、当市の経済を支える基幹産業として今日に至っています。

全国の工業集積地における究極の課題は「後継者育成」といわれています。柏崎地域は、この問題に早くから取り組んでいきます。機械金属加工の技能技術を次の世代へと継承していく人材育成事業「ものづくりマイスターカレッジ」。この事業にかける思いを紹介します。

# 「技を磨き、心を磨く」

## ものづくりマイスターカレッジ

ものづくりマイスターカレッジ運営委員長  
(株)酒井鉄工所 代表取締役

酒井好道さん

### ■若手技能士を育てること を続けていきたい

平成18年に始まったものづくりマイスターカレッジ。当時、柏崎技術開発振興協会の藤田人材育成アドバイザーにこの事業に取り組みたいと相談を受けました。私の好きな言葉に「温故知新」があります。先輩から学んだことを次の世代につなぐ、若い人たちがしっかりと知識を身に付けて自分のものにする。これは、工業界としても必要なことだと考えています。

この地域の特徴は、鉄工所が多いということです。そこで、この事業の実施にあたって、旋盤とフライス盤加工の腕を磨くこと、機械の管理という面から機械保全をカリキュラムに入れたらどうかと提案しました。

この事業でこれまでに75人が国家資格の技能検定に合格しました。この数字が多いか少ないかの評価は難しいところですが、仮に1年間に数人であっても続けていけば年々増えていきます。何もやらなければゼロです。そういうことでは、

### ■技能士のまちとして注目 されるようになりたい

技能継承の必要性に気付き、それをしっかりと実行したことに意味があったわけです。そしてこれからも継続していくことが大事だと思っています。

ものづくりは大変奥の深い分野ですので、腕を磨くには5年から10年はかかると思っています。「芸は身を助く」という言葉がありますが、腕に技をつけることが個々の自信になります。

### 人材育成に尽力してきた人

ものづくりマイスターカレッジ運営委員長  
(株)酒井鉄工所 代表取締役

酒井好道さん

事業創設当初から運営委員長を務める。社内の熟練技能士を研修講師として派遣するなど、人材育成事業の理解者である



マイスターカレッジの技術指導講師を務めてもらっている(株)酒井鉄工所の田中さん(左)と渡辺さん

です。技能検定に合格するだけではなく、そのことをベースにして、さらに上を目指すといった向上心を持ってほしいですね。

マイスターカレッジは、今年で9年目を迎えました。年々、この事業への関心や技能検定に対する各社の意識の高まりを感じています。こつとした意識を持った人がたくさんいることが地域のブランドとなります。柏崎が「技能士のまち」として認知され、「柏崎に頼めば良い仕事をしてくれる」といわれるような地域にしていきたいですね。



# たゆまぬ努力で自己研さん

## マイスターカレッジ受講生に聞きました

平成18年9月にスタートした「ものづくりマイスターカレッジ」。平成26年12月末現在、延べ907人の若者がものづくりに必要な知識を勉強したり技を磨いたりするために研修を受けました。研修当時の思いや苦労したこと、研修で習得した知識や技能が、今それぞれの職場でどう生かされているのか、受講生の今を取材しました。



(有)藤巻製作所  
吉岡 直人さん

手に職を付ければどこでも通用すると藤巻社長に言われて研修に参加。NCフライス盤の2級に挑戦したが不合格。「自分ではできていると思っていて、検定を甘く見ていたが、現実は違った」と当時を振り返る吉岡さん。翌年、再チャレンジしたのですが、1年間悔しい思いをしたので、その努力は並大抵ではなかったとのこと。2級に合格した2年後には1級に一発で合格しました。社長から「しっかりとした技術を、今後は管理業務にも生かしてもらいたい」と言われ、現在は工場長を任されています。



加工が終わった製品の仕上がりを  
三次元測定器で計測



中越工業(株)  
坂田 涼さん

工業高校に通っていたので、こういう職業に就かないと意味がないと思い、機械加工の道を選んだ坂田さん。6年前にNC旋盤の研修を受け、職場では大型の工作機械を操作していました。初めて大きな機械に触ったときは、恐怖感というより怖いもの知らずにやっていたとか。周りの人からサポートしてもらい、やりがいを持って仕事ができているそうです。綱島社長は、「加工ミスがないのは女性特有の緻密さだと思う。将来は工場をしょって立つような存在になってほしい」と話していました。



自分の背丈をはるかに上回る大型  
の工作機械を操作

ものづくりは人づくり — 人材育成にける思い —



丸慶精機工業(株)  
大森 由紀菜さん

普段、工場では内径の研磨をやっているのですが、技能検定の課題は外径の研磨だったので受検のために初めて外径研削盤に触ったとのこと。本人が師匠と呼ぶ田村さんが、マンツーマンでいろいろなことを教えてくれたそうです。「検定2級には合格したが、気持ち的にはまだ余裕はない。それでも他の人が休んだ時には、普段と違う機械も使えるようになった」と話す大森さん。「この子には、あきらめないという強い気持ちがある」と常務の渡邊さん。すでに1級合格という次の目標を持っているそうです。



マイスターカレッジ受講生初の女性技能士。工場内面研削を行う



(株)吉田鉄工所  
小田島 隆さん

「自宅が出雲崎町なので、特に冬場の雪の日は、夜間の研修が終わってから家に帰るのが辛かった」と話すマイスターカレッジ1期生の小田島さん。そんな中でも、研修は1日も休まず出席して皆勤賞をもらったそうです。高校は普通科でしたが、ものを作ることが好きでこの職場に就職したとのこと。NC旋盤の技能検定2級・1級に合格し、昨年は指導員免許を取得しました。これからは、「身に付けた技能を後輩に伝えるのが役割」と吉田社長の期待も膨らんでいます。



社長の信頼が厚く、一人で何台もの工作機械を操作



(株)廣川  
三宮 浩昭さん

廣川社長から「勉強してこい」と言われて参加した長期研修。当時は、何も分からない状況だったので、とにかくしっかり勉強しているいろいろなことを吸収したいと思っていたそうです。NC旋盤の2級に合格してからは、さらに上を目指したいとの思いが強くなり、4年後に1級に合格しました。技能検定の受検に向けて、朝早くから出勤してプログラムを入力したり、休日にも職場にきて練習したりしていたそうです。検定の際に課題となったことが普段の仕事でも役に立っているそうです。



旋盤加工を行う。作業服の胸には金色に輝く1級技能士章が



# 労働力不足や技能技術の継承が これからのものづくりの深刻な課題です

柏崎技術開発振興協会  
人材育成アドバイザー

藤田 昇さん

## ■ものづくりマイスターの 育成を目指して

ものづくりマイスターカレッジは、熟練技能者が蓄積してきたノウハウや技能を若い人へ伝承していくものづくり版の人材育成事業です。マイスターという言葉を使っているのは、参加者により具体的な目標を持たせるためです。まずは、国家資格である技能検定2級の合格を目標にします。その後は各自のペースに合わせて1級の合格を、さらには後輩の指導ができるように指導員試験の合格を目標にします。そして、最終的には管理監督者としての技能技術を備えた特級技能士、いわゆるものづくりにおけるマイスター



を育成していくという目標です。

マイスターカレッジは、新入社員実務講座、短期・オーダー研修、長期研修の3種類を実施しています。その中でも長期研修は、毎週水曜日の夜間に2時間の研修を行います。9月か

ら翌年の7月までという長い期間をかけて知識や技能の習得に励みます。現在、9期生の研修が始まっています。この中から技能技術の継承者が確実に育ってくることを期待しています。

## ものづくりの継承に欠かせない人

柏崎技術開発振興協会  
人材育成アドバイザー

藤田 昇さん

新潟県の職員として長年職業訓練指導に携わる。平成18年、県職員を早期退職し現職に。ものづくりマイスターカレッジのカリキュラムの構築や研修講師を務めるなど、当地域におけるものづくり人材育成の中心的な役割を担う。

**■ 地域への恩返しとの思いが原動力になっています**

私は、平成18年から今の仕事のお手伝いをしています。それまでは県立テクノスクールで指導をしていました。当時、少子化による新規学卒者の入校率の減少や在職者訓練の数字が伸びないといった悩みがありました。なんとかが在職者の技能のレベルアップが図れないか。在職者訓練を技能継承へつなげることはできないだろうか。そんな

ことを考えていた時に、地域の人材育成に力を貸してほしいと誘っていただき、県の職員を早期退職して、この仕事に携わっています。柏崎にもテクノスクールがありました。県の方針で廃校になりました。その時、廃校の担当をしていたため、柏崎には何か恩返しというか、貢献しなければという思いがありました。

長期研修の1期生が、県の技能競技大会で、NC旋盤とNC

フライス盤の2部門でそれぞれ1位2位を独占する快挙を成し遂げてくれたことは、この事業の大きな弾みになりました。

**■ 事業の成果が着実に表れています**

マイスターカレッジの基本理念は、「分かる」「できる」「動ける」です。働くためには、まずは分かること。そしてできることが大切です。若い人に限らず、人は目標や目的を持たないとなかなか行動に移りません。その目標として設定した



研修会場のものづくり活性化センター内に掲示されている技能検定合格者名簿



第9期長期研修開講式で決意表明を行った受講生 (9月3日、市民プラザ)

技能検定は、着実に成果が表れています。検定合格者の成果を事業主に聞いたところ、仕事に対する姿勢の変化や安全意識・コスト意識が高まり、後輩や部下への指導力が向上するなど、その効果を評価する声が多く聞かれます。若い人材を育成しなければ、やがてものづくりがこの町から消えることになるのではないかと、そんな危機感を持って、自分にできることをしっかりとやっていくことの大切さを感じています。